

素人園芸日記

富吉 由香里

助産婦(東大阪市)

私事ではありますが、昨年結婚しました。新生活に胸をふくらませ引っ越ししてみたら、新居のベランダが殺風景なので、野菜の苗を育てることにしました。

シソと三つ葉

まずは、料理によく使うシソと三つ葉の苗を買ってきました。水を与え、思いつけば肥料らしきものを与えてみました。よく育ったように思っていたのですが、そのうちだんだんと姿が変わってきました。茎は太く葉は固く、見るからに生では食べにくそう。やがて葉は小さくなり、茎ばかりが伸びてきて、何だか野生化したみたいです。どうやら「育て方」を間違えたようです。今年も挑戦してみるつもりですが、この失敗を生かして、今度こそおいしくいただくつもりです。

パセリ

パセリをお店で買くと、花束かと思うくらい大量に一袋に入っていますが、使う量はしれているためいつももったいないと感じていました。必要な量だけ摘めればと、苗を2つ買ってきました。

パセリは仲良く2つ並んで順調に育っていきます。調子を良くした私は、「早く大きくなあれ」とばかりに肥料をたくさん与えてみました。すると、急にパセリの葉が黄色くなり、しおれてしまいました。どうして枯れてしまったのかわからなかったのです。全くダメになってしまった鉢を何気なしにひっくり返してみました。すると鼻が曲がりそうになる悪臭！ 鉢の底で固まった肥料は、

水をしっかり吸ってカビを生やし、文字にするのもはばかれるものに変化していました。可哀想なことをしたと反省しつつ、生き残っていたわずかなパセリの芽を違う鉢に移し替え、今度は肥料も少なめにし、祈るような思いで見守りました。

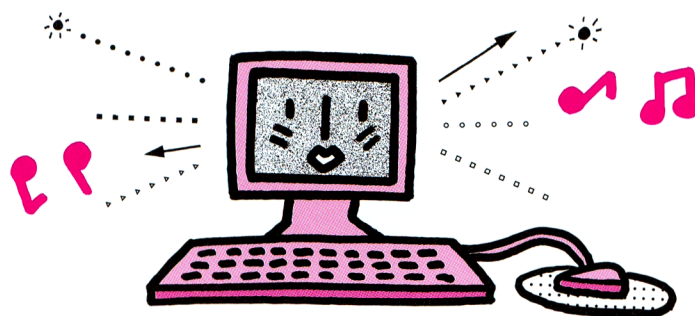
数日後、本当に小さくなっていた生き残りパセリから、新しい芽が生まれてきました。鮮やかな色をしたその新芽は、鉢の中で存在感を主張していました。復活を遂げたこのパセリは、今も青々と繁り、食卓を飾ってくれています。

キャットニップ

お次はパセリと同じハーブ仲間のキャットニップ。猫が好むことからこの名がつけられたそうで、猫のおもちゃに入っていたりします。

私の実家には、看護婦時代を一緒に暮らした黒猫の“あきみさん”がいます。都会のマンション事情ゆえ、今は離れて暮らしていますが、ネズミを捕る能力は劣えず今年9歳になるおばあさん猫とは思えぬ活躍を見せ、実家の家族を驚かせています。元気に田舎暮らしをエンジョイしている彼女に、キャットニップ入りのおもちゃを作ってやろうと思いました。

まず花屋さんで種を買ってきました。ハーブを育てるのは初めてなので、本を読んで慎重に育てたつもりでしたが、発芽はするものの育たず。そこで、種から育てるのをあきらめ、苗を探すほうに目を向けました。種用だった土をパセリなど他の植物の鉢に使い、しばらく忘れていたある日、パセリの横からパセリ以外のものが生えているで



はありませんか！ 双葉に見覚えがあります。キャットニップです。丁寧に育てていたときにはすぐダメになってしまっていたのに、捨鉢で本葉まで出しているなんて！

しばらくパセリの横で大きくしてもらってから慎重に植え替えをしました。今度は大丈夫。しっかり根を降ろし、すくすくと育っていききました。

先日実家に帰省した際、キャットニップの葉を乾燥させたものを袋に入れ、あきみさんのおもちやとして持って帰りました。弟が「あーちゃん(あけみさんのこと)、目つきがヤバイ」と笑うほど、あきみさんは喜んで遊んでくれました。今は匂いに慣れたのか放ってあるらしいのですが、今度はもっと大きいものか、ネズミの形の袋に入れてみようと思っています。

ユキノシタ

そうやって園芸生活を楽しんでいたある日、「育て方が簡単で、おいしい」という雑誌の記事が私の目に飛び込んできました。その植物の名は、母乳の本にも登場する「ユキノシタ」。どんなものか分からなかったため、実家の祖母に頼むと、なんと段ボール一杯分のユキノシタが用意されていました。あまりにも多過ぎるので、大部分は実家に植え、元気の良さそうなものの数本を自宅に持ち帰りました。このユキノシタ、雪の下にあっても緑を絶やさないとされるその名の由来通り、寒さにも水のやり忘れにも耐え、梅雨が近づく頃までにはみるみる成長しました。

5 cm 以上の大きさになった葉に軽く衣を付け

て、天ぷらにしてみました。見た目は、葉の表面に生えた小さな毛がザラザラとして食べにくそうですが、天ぷらにしてみると表面はカリッと、中は肉厚でモチモチと、たまらない食感です。

後日、たまたま入った一杯飲み屋でユキノシタの天ぷらを出してくれました。私の味とそんなに変わらないような気がして、これは自慢できると嬉しくなりました。

ネギ

最後にネギ。これは結構、欲しいときに買い忘れていたりするんですね。それが、いつでもベランダにあれば言うことはありません。

そんなとき、ふと見た雑誌に「ネギの根を植えて育てれば、種から育てるより簡単で早く収穫できる！」とあるじゃありませんか。早速挑戦です。根から長めに切ったネギを土に植えます。植えた次の日には切り口が中から押されたように盛り上がってきます。新しい芽が伸びてきたようです。途中で枯れてしまったものもありましたが、大部分は根が付きしました。まだ細くて小さい赤ちゃんネギです。使うのがもったいないのですが、少し伸びたところで切ってみました。すると、きつすぎず、優しい香りがします。生きている香りとも言いましょうか。こんな体験は初めてでした。

ベランダ園芸を始めてから、野菜たちに多くのことを教えてもらった気がします。私たちを生かしてくれているたくさんの命に感謝し、また、新しい野菜づくりにもチャレンジしたいと思っています。次回は中村和海さんにバトンを渡します。